

拝復。

ただいまは、御ていねいの御葉書にて、いたみ入りました。心境ますます清澄の御様子、うれしく存じます。私は、だいぶなまけましたので、二週間ばかり仕事をして、十日前後に千塚木のお宅へお伺ひしようと思つてゐます。

風邪は、まだ抜けません。鼻赤になつた

(御内へも、どうかよろしく、)

本郷区駒込千塚木町五十番地 山岸外史様

三十日 府下三鷹町下連雀一三 太宰治

【校異】

十月三十一日→10月30日

拝復〔全集〕→拝復。

千塚木〔全集〕→千塚木

(縦線なし)〔全集〕→(縦線あり)

鼻赤になつた。〔全集〕→鼻赤になつた

どうかよろしく。〔全集〕→どうかよろしく、

昭和16年(1941年)12月17日(日にち直筆、消印)

柳 仁 後。

連達をうたなき、改心縮へない

ましち。會の方へは、私から

そのやうに申して回直きますから、

心に取あさらぬやう。

せんはは、ふたあかつて、ていへん

あせ流さまに、規成り、わるいと

思ひやりん。 た白様も、おえんじで。

尚、山本君かけ解りいなるら、ハナルと、セザンヌの画集を借りて回直さ  
ましたと申して



拝復。

速達をいただき、恐縮に存じました。会の方へは、私からそのやうに申して置きますから、御心配なさらぬやう。

先日は突然あがつて、たいへんお世話さまに相成り、わろいと思ひました。皆様も、お元気で。

尚、山岸君が御帰りになつたら、ルナアルとセザンヌの画集をヒレザキ氏から借りて置きました、と申して下さい

本郷区駒込千駄木町五十 山岸外史様 御内様

十七日 府下三鷹町下連雀一一三 太宰治

【校異】

拝復〔全集〕 → 拝復。

と申して下さい。〔全集〕 → と申して下さい

山岸やす子宛〔全集〕 → 山岸外史様 御内様

【フート】

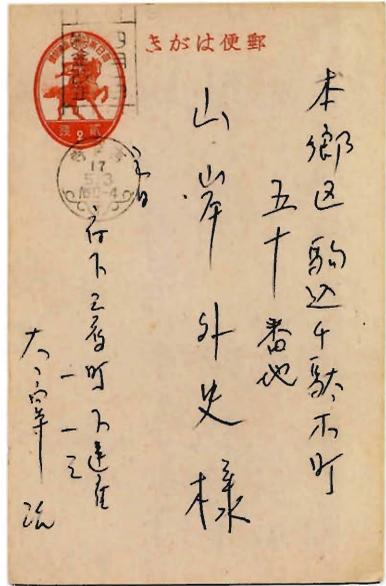
ヒレザキ氏—— 鯨崎潤。小館善四郎の友人で、洋画家。

昭和17年(1942年)5月3日(日にち直筆、消印)

抑、  
任ん。

湯ヶ原の記念館を、  
一厚情、身にしめます。あり  
かたう存じます。

あれから何かと、  
次への創作に取りかかる事、  
ずには忘りますか、  
毎夜、腹案を  
ねつて居ります。いつか  
お逢ひ  
の折は万々。今、  
心からの  
お逢ひを  
望みます。



拝啓。

湯ヶ原の記念写真をいただき、御厚情、身にしみます。ありがたう存じます。

あれから何かと雑用に追はれ、次の創作に取りかかる事が出来ずに居りますが、毎夜、腹案をねつて居ります。いづれお逢ひの折に万々。今日は心からの御礼迄。

不一。

本郷区駒込千駄木町五十番地 山岸外史様  
三日 府下三鷹町下連雀一三三 太宰治

【校異】

拝啓〔全集〕 → 拝啓。

いづれ、〔全集〕 → いづれ

万々、〔全集〕 → 万々。

お礼まで。〔全集〕 → 御礼迄。

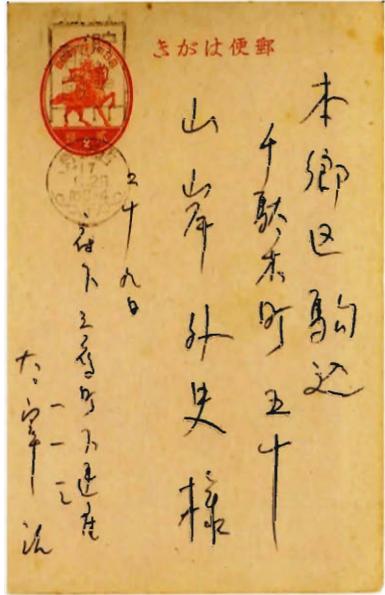
【フート】

湯ヶ原の記念写真——四月下旬に、山岸外史が逗留していた湯ヶ原温泉の鶴屋を訪れたときの記念写真。「芸術新聞」(五月十六日)に掲載された、湯ヶ原不動滝で山岸と写した写真と思われる。

昭和17年(1942年) 6月29日(日にち直筆、消印)

柳 復。

あんなことにはあさるやうだと、天  
 衣無縫も、まだほんものにはあり  
 ませんね。そのうち私のはうから、本  
 郷へ遊びに行かうと思つておます。  
 先は、拙著を二種類お送り致し  
 ました。おひまの折に、お読み  
 下さい。私は昨はから、まんじや  
 黒点呼の事、教練で、大野子、  
 ワアツ、などの稽古。けふも、  
 これから出かけるのです。七  
 月六日に、黒点呼の本ものがある  
 ります。



拝復。

あんなこと気になさるやうだと、天衣無縫も、まだほんものではありませんね。そのうち私のはうから、本郷へ遊びに行かうと思つてゐます。先日、拙著を二種類お送り致しました。おひまの折に、お読み下さい。

私は昨日から、またもや点呼の軍事教練で、突撃！ ワアッ！ などの稽古。けふも、これから出かけるのです。七月六日に点呼の本ものがあるのです。

不一。

本郷区駒込千駄木町五十 山岸外史様  
二十九日 府下三鷹町下連雀一一三 太宰治

【校異】

拝復〔全集〕 → 拝復。

〔脱字。〕「本ものがあるのです。」の次行〔全集〕 → 不一。

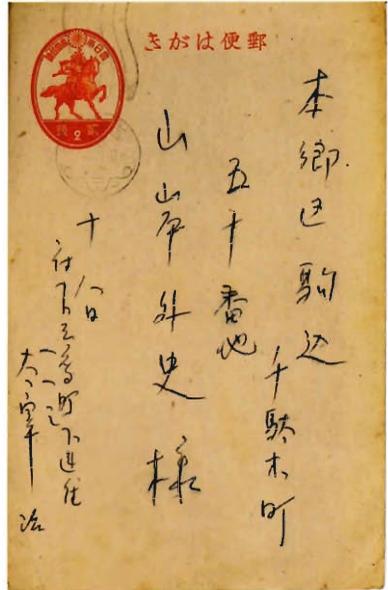
【フート】

拙著を二種類——「正義と微笑」（錦城出版社、昭和十七年六月）、  
「女性」（博文館、昭和十七年六月）か。

山岸外史は「太宰治おほえがき」で「太宰のこのハガキはすでにかなり時代に対して無関心になっているようにみえるものがある。太宰が時代を諦めきつて時代に順応しているようにもみえるところである」と書いている。

昭和18年(1943年) 4月18日(日にち直筆、消印、年は推定)

柳 復。 けふさむしう伝ります。 けふ思ひ心  
 下さい。 健康所討の事と存じます。 塩月君  
 が、二十日は北京に出発し、二十日、五日坂に  
 東京へ差付くと、電報が有りますして、  
 二十九日午後四時半 目黒 雅叙園で  
 結婚式を挙げる事になり、東京には、塩月君の  
 身内の人も無一やうです。 新が、塩月君から  
 伝のまゝにして、結納をおさめたり。 何かと先方と  
 打合せして伝ります。 山岸見は、その二十九日には  
 せひ友人代表として出席して、七、七、七と存じて  
 致します。 いづれまたあう女めて、近知いたしあすが、二十九日  
 は、ひとつ都合して、遅くして下さい。 画會は、二十四日に、祥見のつせり  
 お賈法、なしります。



拜復。御ぶさたして居ります。御寛恕下さい。御健闘の事  
 と存じます。塩月君が、二十日に北京を出発し、二十四、五  
 日頃に、東京へ着くといふ電報がありまして、二十九日午後  
 四時半目黒雅叙園で、結婚式を挙げる事になり、東京には塩  
 月君の身内の人も無いやうですから、私が塩月君からのたの  
 まれて結納をおさめたり、何かと先方と打合せて居ります。  
 山岸兄に、その二十九日には、ぜひ友人代表として出席して  
 いただきたいと存じてゐます。いづれまたあらためて御通  
 知いたしますが、二十九日は、ひとつ都合して置いて下さい。  
 画会は二十四日に拝見のつもり。お電話いたします。 不一。

本郷区駒込千駄木町五十番地 山岸外史様  
 十八日 府下三鷹町下連雀一三三 太宰治

【校異】

拜復〔全集〕 → 拜復。

午後四時半、〔全集〕 → 午後四時半

目黒雅叙園で〔全集〕 → 目黒雅叙園で、

をさめたり、〔全集〕 → おさめたり、

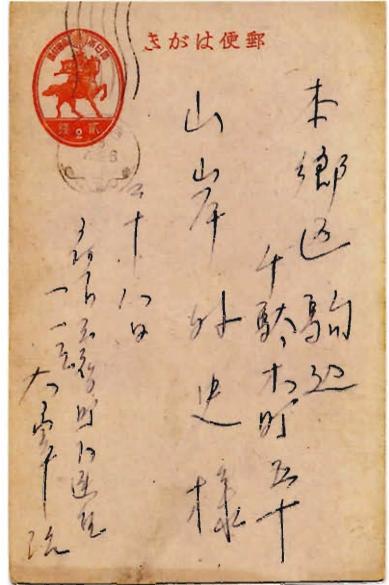
(改行) 山岸兄に、〔全集〕 → (改行なし)

【ノート】

塩月君——塩月起。「青い花」同人。友人の縁談と結婚を描いた太  
 宰治「佳日」(改造)昭和十九年一月の大隅忠太郎のモデル。

昭和18年(1943年) 4月28日 [日にち直筆、消印]

折復、先夜の感想あり  
 加たく拜讀いたした。本堂に  
 二十九日には、午後四時半  
 まゝに目黒雅楽園においで  
 下されなく、物は紋服に袴  
 白足袋のつもりでございませぬが  
 なほ、二つ分は、京橋の某店  
 のお食に準備候へば、中候に  
 少しく準備はしう存候。教  
 旨は、二十九日に



拝復。先夜の御感想ありがたく拝読いたしました。本当に二十九日には、午後四時半までに目黒雅叙園において下されたく、私は紋服に袴、白足袋のつもりでございますが。なほ、二次会は、京橋の某店の筈に御座候へば、御懷中に少しく御準備願はしう存候。では、いづれ二十九日に。

敬白。

本郷区駒込千駄木町五十 山岸外史様  
 二十八日 府下三鷹町下連雀一三三 太宰治

【校異】

拝復〔全集〕 → 拝復。

御感想、〔全集〕 → 御感想

(改行なし) なほ、〔全集〕 → (改行)

(改行なし) では、〔全集〕 → (改行)

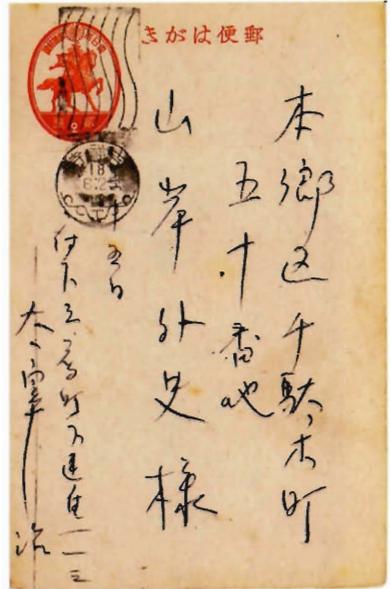
(改行なし) 敬白。〔全集〕 → (改行)

【フート】

目黒雅叙園——塩月越の結婚式。

昭和18年(1943年)6月25日(日にち直筆、消印)

抑復。先日は御念のりも。  
でも、末あければ、すべてよしで  
ございます。掛軸は、物も  
200の賞金がありました。  
大事におあづかり申して置  
きます。お氣がむいへ時は、  
またおらして下さい。  
仰見。



拝復。先日は残念でした。でも、「末よければ、すべてよし」でございます。掛軸は、私も200の実感がありました。大事におあづかり申して置きます。お気がむいた時には、またおらして下さい。  
 拝具。

本郷区千駄木町五十番地 山岸外史様  
 二十五日 府下三鷹町下連雀一三三 大宰治

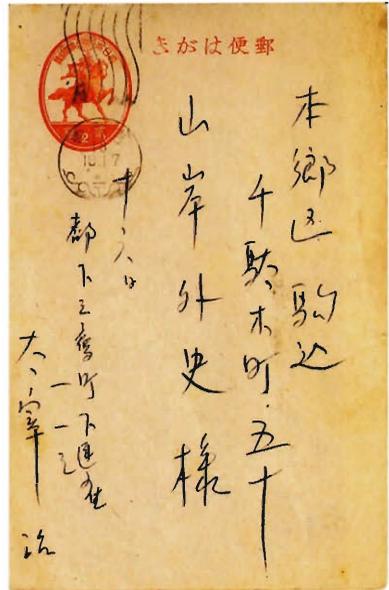
【校異】

拝復〔全集〕 → 拝復。

またいらして下さい。〔全集〕 → またおらして下さい。

昭和18年(1943年) 10月16日(日にち直筆、消印は17日)

此甚お書 ありかへう存じます。久しくお書きなせしめて  
 の儀ります。まゝにや、少し長い小説にたりかあり、今月  
 末まで書き上げなけ。おはつけなくなつて、毎朝早く  
 起きてやつておますか、一週間ほど前から風邪をひいて、  
 仕事も難儀になりやした。でも、今月末までに何とかして  
 けっけるつもりです。おちうも、お病人らしく、お身辺  
 整つたかない事では。面白くなつことなど、おありとか  
 私もこのころは、仕事か、おすかに面白く、おれから、ひとり  
 焼酎など、三杯のむのが、おすかにたのしく、おれくらぬのも  
 のです。風邪がくるしいので、<sup>(このころは)</sup>仕事かすむと、すくに  
 寝ます。 ~~お~~ たまに荒い人なちと話をするのにも、注  
 意しておます。おかなか、いゝかおねませんね。  
 つまらぬ、おのなど、お目にとまつたらしく、あはれは、このこ  
 ろ最にお出まな文と早おした、お本に。お夫朝し、見本が  
 出まてまおしたか、お送りしようかどうしようかと迷つておます。



【校異】

十月十七日〔全集〕 → 10月16日

かすかに面白く、〔全集〕 → かすかに、面白く、

【フット】

少し長い小説——「雲雀の声」。小山書店から刊行予定の『雲雀の声』は、十一月二十九日夜半から翌日未明の空襲で原稿と印刷製本中の本が焼失し、残った校正刷りをもとに、戦後「パンドラの匣」に書き換えられる。

【実朝】——『右大臣実朝』（錦城出版社、昭和十八年九月）。

御葉書ありがたう存じます。久しく御ぶさた申して居ります。またもや、少し長い小説にとりかかり、今月末まで書き上げなければいけなくなつて、毎朝早く起きてやつておますが、一週間ほど前から風邪をひいて、仕事も難儀になりました。でも、今月末までに何とかして、片づけるつもりです。そちらも、御病人らしく、御身辺落ちつかない事です。面白くないことなど、おありとか、私もこのごろは、仕事がかすかに、面白く、それから、ひとりで焼酎など二、三杯のむのが、かすかにたのしく、それくらゐのもです。風邪がくるしいので、このごろは仕事がすむと、すぐに寝ます。たまに若い人たちと話をするのにも、注意してゐます。なかなか、いいのがありません。

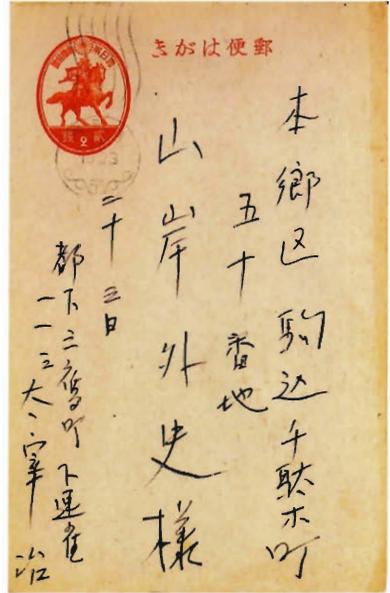
つまらないものなど、お目にとまつたらしく、あれはこのごろ最も不出来な文章でした。本当に。「実朝」も、見本が出来て来ましたが、お送りしようかどうかと迷つてゐます。

本郷区駒込千駄木町五十 山岸外史様

十六日 都下三鷹町下連雀一一三 太宰治

昭和18年(1943年)10月23日(日にち直筆、消印)

私は、あなたの「日本武尊」を、本屋  
で五頁ほど読みました。あれは、  
あなたが、どうして私に読ませた  
くなかったのですか。あなたの含羞  
をせうか。私に、五頁ほど立ち讀  
みをして、かなりの燃カ作だ、と思ひ  
その時、私の「実朝」を恥かし  
く思つたのです。山岸氏にお送  
りするほどのものでも無、と思ひ、  
それが、迷ひの種になりました。  
お叱りは無理でございませう。



私は、あなたの「日本武尊」を、本屋で五頁ほど読みました。あれは、あなたが、どうして私に読ませたくなかったのですか。あなたの含羞でせうか。私は、五頁ほど立ち読みをして、かなりの労作だ、と思ひ、その時ふと、私の「実朝」を恥かしく思つたのです。山岸氏に、お送りするほどのものでも無いと思ひ、それが、迷ひの種になりました。お叱りは、無理でございます。

本郷区駒込千駄木町五十番地 山岸外史様  
二十三日 都下三鷹町下連雀一三三 太宰治

### 【校異】

(脱文。「読ませたくなかつたのですか。」の後)〔全集〕→あなたの含羞でせうか。

私は五頁ほど〔全集〕→私は、五頁ほど

種と〔全集〕→種に

### 【フット】

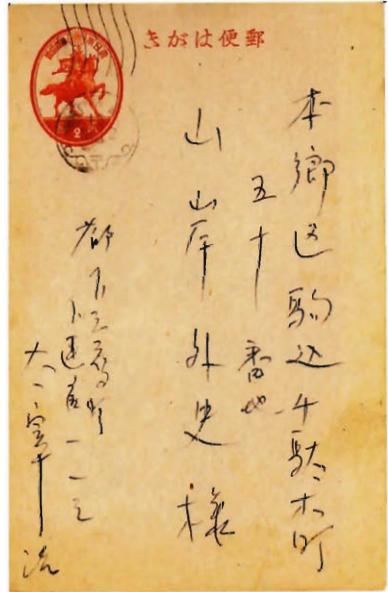
「日本武尊」——「日本武尊」(開発社、昭和十八年三月)。山岸外史「人間太宰治」によれば、この本は、友人の出版社と喧嘩までして出すことになつた上に、「バカげた役所によびだされて、そこでも文句をつけられ削除訂正」させられ、「そんな仕事をぼくは誰にも送る気にはならなかつた」という。また同書には、この書簡

は、なぜ「右大臣実朝」を送つてくれないのかと太宰に書いた返事だとある。

昭和18年(1943年)12月12日〔消印〕

昨は失礼いたしました  
 いた、財布をお忘れ  
 ぬになりました。郵送  
 いたします。おそくとも  
 二、三日後にはお手許  
 にとどく事と存じます。

掛軸は、このつぎまでおあがり置きです。



昨日は失礼いたしました。財布をお忘れになりました。郵送いたします。おそくとも、二、三日後にはお手許にとどく事と存じます。

掛軸は、このつきまでおあづかりして置きます

本郷区駒込千駄木町五十番地 山岸外史様  
都下三鷹町下連雀一―三 太宰治

【校異】

八月十二日〔全集〕 → 12月12日

おあづかりして置きます。(全集) → おあづかりして置きます